

## 再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：深澤 淳志

事業名 <small>あさひかわとかち</small> 旭川十勝道路 一般国道38号 富良野道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自：北海道富良野市字学田三区 至：北海道富良野市字上五区		延長 8.3km			
事業概要 旭川十勝道路は、旭川市を起点に富良野市を經由して占冠村に至る延長約120kmの地域高規格道路であり、北海道縦貫自動車道及び北海道横断自動車道と連絡することで高規格幹線道路網を補完する規格の高い道路として旭川圏と十勝圏を結びます。このうち、富良野道路は、富良野北ICから上五区交差点に至る延長約8.3kmの事業である。					
H14年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H15年度用地補償着手	H18年度工事着手		
全体事業費	約284億円	事業進捗率	30%	供用済延長	0.0km
計画交通量	9,600~10,700台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6  (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 193/280億円 (事業費: 174/261億円) (維持管理費: 19/19億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 445/445億円 (走行時間短縮便益: 363/363億円) (走行経費減少便益: 49/49億円) (交通事故減少便益: 32/32億円)	基準年 平成21年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=2.6 (交通量+10%) B/C=2.0 (交通量-10%) 事業費変動 : B/C=2.1 (事業費+10%) B/C=2.5 (事業費-10%) 事業期間変動 : B/C=2.2 (事業期間+1年) B/C=2.4 (事業期間-1年)					
事業の効果等 地域の特殊性を考慮した便益 ①夏期観光時期の混雑緩和 ・夏期観光時期の休日交通を考慮することによる効果【約13億円※】 ②救急医療（初期治療）へのアクセス向上 ・当該道路の整備による救急医療（初期治療）へのアクセス向上効果【約3.3億円※】 ③余裕時間の短縮による効果 ・当該道路の整備により到着予定時刻に遅刻しないために見込む余裕時間が短縮する効果【約35億円※】 ※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値） 定性的な効果 ④市街地部の交通混雑緩和 ・富良野道路へ通過交通の転換が図られ、現道部における渋滞や混雑の緩和が期待される。 （観光時期における渋滞状況 最大渋滞長4,500m） ⑤農産物の流通効率化 ・富良野地域で生産されるにんじんやたまねぎなど野菜類の円滑な輸送により流通の効率化が期待される。 （富良野地域の生産量 にんじん：約3万t/年、たまねぎ約11万t/年） ⑥観光地へのアクセス性向上 ・富良野、美瑛地域にある観光地へのアクセス向上や、スキーなど冬期観光交通の安全性向上が期待される。 （富良野、美瑛地域の観光入込客数 約618万人/年） ⑦バス路線の利便性向上 ・富良野市街地を通過する路線バスの遅れの解消等が期待される。 （富良野市街地を通過する路線バス運行状況 30往復便/日 利用者 約22万人/年） ⑧地域ネットワークの形成 ・富良野地域と道北圏の拠点都市である旭川市を結ぶ地域ネットワークの形成により高次医療施設（旭川赤十字病院等）や、大型商業施設へのアクセス向上が期待される。 ⑨CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量10,870(t-CO2/年)の削減が期待される。					

